



平成 19 年 4 月 26 日

各 位

株式会社アルプス技研
IR・広報室

平成 19 年 12 月期第 1 四半期業績の概況について

株式会社アルプス技研の平成 19 年 12 月期第 1 四半期(平成 19 年 1 月 1 日から平成 19 年 3 月 31 日まで)業績の概況につきまして下記ご説明申し上げます。

【Ⅰ】連結業績

(1) 連結業績の主要数値

		[前年同期比]
売 上 高	56億6,523万円	5億4,041万円増、10.5%増
営 業 利 益	4億6,762万円	1億5,148万円増、47.9%増
経 常 利 益	4億6,148万円	1億8,329万円増、65.9%増
当 期 純 利 益	2億6,410万円	1億5,702万円増、146.6%増

(2) 連結事業のセグメント別売上

		[前年同期比]
アウトソーシングサービス事業	54億7,635万円	4億9,905万円増、10.0%増
そ の 他 事 業	1億8,888万円	4,136万円増、28.0%増

当社の事業分野に対する旺盛な需要を背景として、技術者派遣を主体とする「アウトソーシングサービス事業」とモノづくりを主体とする「その他事業」ともに売上高は前年同期を大きく上回り、連結売上高は前年同期比で 5 億 4,041 万円増、10.5%増の 56 億 6,523 万円となっています。「アウトソーシングサービス事業」のなかでもとりわけ台湾のアルテックシャインは、現地ユーザーへの製造設備の据付サービスの受注増等により、前年同期比 2 億 6,043 万円増、308.3%増となっています。

かような売上増に伴い、募集費などによる販管費の増を上回る売上総利益を上げ、営業利益は前年同期比 47.9%増の 4 億 6,762 万円、経常利益は前年同期比 65.9%増の 4 億 6,148 万円、当期純利益は前年同期比 146.6%増の 2 億 6,410 万円となっております。なお前年に赤字プロジェクトを抱えていた業務系ソフト開発子会社は前年中間期において同プロジェクトを全て処理し、下期以降黒字業績となっていることも当第 1 四半期の利益の伸びに寄与しました。

連結業績に関し、期初予想との対比では、ほぼ予想通りの進捗状況にあると言えます。

【Ⅱ】個別(アルプス技研)業績

(1) 個別(アルプス技研)業績の主要数値

		[前年同期比]
売 上 高	44億6,500万円	1億4,211万円増、3.3%増
営 業 利 益	3億5,015万円	2,674万円減、7.1%減
経 常 利 益	3億8,426万円	2,526万円減、6.2%減
当 期 純 利 益	2億1,515万円	2,869万円減、11.8%減

(2) 個別(アルプス技研)事業のセグメント別売上

		[前年同期比]
アウトソーシングサービス事業	43億5,196万円	1億1,962万円増、2.8%増
そ の 他 事 業	1億1,303万円	2,249万円増、24.8%増

株式会社アルプス技研

個別売上高の97.5%を占める技術者派遣を主流とした「アウトソーシングサービス事業」は、前年同期に比べて暦日稼働日数減の影響を受け2.8%増の43億5,196万円となっております。

一方、今回は募集や教育研修に関わる費用などが第1四半期に偏り、販管費が前年同期より約1億円ほど増加した結果、営業利益、経常利益、当期純利益ともに前年同期より2,500～2,800万円ほどの減益となっておりますが、ほぼ予想通りの進捗状況にあります。

(3) 売上上位100社による主要業種別売上高構成

	売上高	前年同期比	売上高構成比	
			今期	前年同期
自動車関連(含む機器・部品、ナビ・オーディオ)	11億4,077万円	+5.0%	32.3%	31.3%
総合家電	4億2,763万円	+1.4%	12.1%	12.1%
半導体	3億8,631万円	+76.2%	11.0%	6.3%
携帯電話	1億981万円	△20.6%	3.1%	4.0%
精密機器	8億4,924万円	△0.8%	24.1%	24.6%
情報・通信	1億1,754万円	+5.0%	3.3%	3.2%
ソフト開発	1億5,047万円	△23.0%	4.3%	5.6%
上記以外(航空、環境機器他)	3億4,528万円	△22.1%	9.8%	12.9%
合計	35億2,705万円	+1.6%	100.0%	100.0%

(4) 派遣稼働率、派遣稼働工数、派遣単価

	07年第1四半期	06年第1四半期
派遣稼働率	96.7%	97.7%
派遣稼働工数	176.8H/月	181.5H/月
派遣単価	3,576円/H	3,403円/H

暦日稼働日数減により、売上高上位100社合計の売上は総売上の3.3%増に比べ1.6%増となっています。業種別では自動車関連に対する売上は依然しっかりとありますが、半導体関連特に半導体設計の売上が顕著であります。

なお派遣に関しますパラメータは、稼働率、稼働工数ともに前年同期を下回っておりますが、稼働日数減によるもので想定内です。

【Ⅲ】第2四半期以降の当社活動について

4-6月の暦日稼働日数は前年同期と同じであり、派遣による業績動向は派遣単価の改定並びに4月に入社した新卒の稼働状況にかかっていますが、現在の見通しでは予想通りの状況となっております。

従いまして今期中間期(平成19年1月1日から6月30日まで)の業績予想は、期初(平成19年2月13日)に発表しました予想通りに着地するものと思っております。

(ご参考)今期中間期(平成19年1月1日から6月30日まで)の業績予想

【連結】	[前年同期比]
売上高	110億7,000万円
営業利益	6億2,800万円増、6.0%増
経常利益	5億7,000万円
当期純利益	8,700万円増、18.2%増
	5億8,000万円
	1億900万円増、23.4%増
	3億1,000万円
	2億3,500万円増、318.7%増

【個別】	[前年同期比]
売上高	92億5,000万円
営業利益	3億6,800万円増、4.2%増
経常利益	5億2,000万円
当期純利益	1,100万円増、2.2%増
	5億6,000万円
	増減なし
	3億円
	9,600万円増、47.2%増

注)上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいます。実際の業績等は業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

以上